宮城県農業高等学校　農場部　平成２７年　４月２２日

文部科学省指定事業
スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール指定校

# 継往開来

http://miyanou.myswan.ne.jp/

## 平成２７年度スタート

## ～歴史と伝統にふさわしい新生宮農の発展へ～

※継往開来：先人の事業を受け継ぎ、発展させながら未来を切り開くこと。

### 適期・適作に学ぶ

**校長　佐々木　英一**

桜前線がここ名取市高舘の地に到来し和やかな雰囲気を醸しだしています。そろそろ春の農作業の時期となり忙しい日々が続いていきます。

多くの植物や動物たちが活発に行動し生命の息吹が躍動する季節となりました。稲作栽培ではもうすでに種まきが終わり、ハウス内では稲の葉が緑色を濃くし凛々と太陽の光を浴びピーンと背伸びをしています。

さて、適期適作ということばがあります。生徒の皆さんは知っているでしょうか。作物は種を播くべき時期に播いて、育つべき時期に育ち、収穫すべき時期に収穫することが大切とされます。これを「適期・適作」と呼んでいるようです。そのためには、植物の特徴を熟知し毎日の観察や栽培管理の仕方が非常に大切になってきます。より良いものを作るには、皆さんが教科・実習等で圃場に行き調査・観察していることがとても大切になってきます。私達人間にもこのことが当てはまります。生まれてから人生の終末を迎えるまでの間、子供の体・頭脳が著しく伸びる時期があります。そのときにしっかりと栄養を与えて伸ばしてあげることが重要になってきます。そうでないと良いものはできなくなります。

皆さんも時期を見過ごすことなく適期・適作を何事においても行って欲しいものです。

### 井の中の蛙大海を知らず

**農場長　川口　友和**

４月が始まりました。生徒諸君はどんな目標を持ち、日々生活しているでしょうか？昨年の４月の農場便りには「一粒万倍」を目標に実りある学校生活を過ごせるようにと書きました。今年は「井の中の蛙大海を知らず」と言う言葉を贈ります。

本校は昨年度から始まった文部科学省事業「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール」指定校です。昨年度は農業関係教職員による「地域を知る」をテーマに実践してきました。地域農家さんへのアンケート結果から、地域に求められる人物像として高かったのが、「コミュニケーション能力」や「やる気」でした。

今年度は、農家インターンシップを再開させます。井戸（学校）の中に住んでいて、外(社会)に出たことがなく、極めて狭い見識にならないようにしてほしいと思います。また、積極的に外部に出て活躍してほしいと思います。

# 継往開来

http://miyanou.myswan.ne.jp/

## ～おかえりなさい！～　青年海外協力隊 パラグアイ派遣　教諭 阿部 江里

パラグアイでは、7つの小農コミュニティを対象として、農業生産の向上、販路開拓への支援及び農業生産組織の改善と強化等を目的としたプロジェクトに携わってきました。

パラグアイは電気やガス、水道などの設備をはじめ、ものは日本に比べるとはるかに少ないですが、思いやりや労わり、優しさに溢れており、本当の豊かさとは何かを教えてくれる場所でもありました。今後は、途上国の農業や世界から見た日本、貧困の中で生きる人々の現状や彼らが大切にしている人との繋がりを通して、「豊かさ」や「幸せ」の概念について考える機会を設け、学校や地域のためにできることを生徒達と共に考えていきたいと思います。

## 名取春祭りに参加して　農業園芸科 2年 安藤 綾音

なとり春まつりで私たちが作った商品を販売してきました。食品化学科で作ったリンゴジャムやジュース、農園科で育てたパンジー、手作りした和紙のハガキや間接照明を販売しました。販売開始時間前から行列ができ、多くのお客様が買いに来てくれました。

販売開始直後は、対応するのがとても大変でした。また、おつりの計算を正確に素早くしないといけないので緊張し、とても疲れました。

販売して感じたことは、宮農と言っただけで買ってくれるお客様がたくさんいることです。宮農はたくさんの人に信頼され、応援されていることを知りました。これからも先輩が築きあげたものを引き継いでいきたいです。

## ～近況報告～

今年度農場便り「継往開来」の編集となりました、稲村大地です。ここでは最近の農場運営やイベントについて報告させていただきます。

・平成２７年度仮設農場管理室販売会を、大変好評なため今年も実施します。昨年は４回実施しましたが、今年は８回実施予定です。日程や販売物については、後日メール配信いたします。

・５月２１日全校田植え※小雨決行（予備日５月２２日）

・５月２７日校内意見発表会